

授業科目名	研究ゼミナール I	担当教員	◎久保幸代、足立智孝、休波茂子、栗栖千幸、 有家香、松尾ミヨ子、恵美須文枝、吉川一枝、 宮本眞巳、大石昌也、渡邊八重子、平山香代子、 鶴沢淳子、青山美紀子、川上裕子、下陸子、 中島洋一、吉野妙子、櫻井一江、兼子裕美、 岩谷香、松丸直美
必修	開講年次：4 年前期	単位：1 単位	授業形態：演習 30 時間

【授業概要】

研究ゼミナールの主な目的は、学生の「研究論文」を推進していくに当たって遭遇する問題点や解決策を、学生グループと教員との対話を通じて意見交換を行う一方、基礎ゼミナールと同じ形式で専門科目の学修についての振り返りや対話や相互支援をグループで行う。研究ゼミナールは、3 年次に看護研究コース中に始まり、4 年次前期にまでに終了し、レポートを提出することが要求される。3 年前期の「看護研究」において検討したテーマをもとに、ゼミの中で討議し、研究課題を明確にする。看護に関連した現象を選び、それに関する文献を広く読み、エビデンスを見出し、研究計画書の作成をする。また、研究における倫理的配慮について考える。

【授業目的・目標】

1. ゼミナールを通じて学生は教員との定期的な接点を持ち、小人数のグループの中で、自己の研究論文を進めていくに当たっての問題点や方法論について話し合う。
2. 研究疑問と研究課題を言語化する。
3. 研究計画書の作成を行う。
4. 研究における倫理的配慮について言語化する。

【履修条件】

「看護研究」を修得していること

【授業計画】

- | | |
|--|----------|
| [01] 全体ガイダンス 看護研究の意義とプロセス (文献レビューを中心に) | (久保・有家) |
| [02] 研究計画書の作成、研究のまとめ方と伝え方 看護研究と倫理 | (栗栖・足立) |
| [03] 担当領域・担当教員の指導による討論 ① | (領域担当教員) |
| [04] 担当領域・担当教員の指導による討論 ② | (領域担当教員) |
| [05] 担当領域・担当教員の指導による討論 ③ | (領域担当教員) |
| [06] 担当領域・担当教員の指導による討論 ④ | (領域担当教員) |
| [07] 担当領域・担当教員の指導による討論 ⑤ | (領域担当教員) |
| [08] 担当領域・担当教員の指導による討論 ⑥ | (領域担当教員) |
| [09] 担当領域・担当教員の指導による研究計画書の作成 ① | (領域担当教員) |
| [10] 担当領域・担当教員の指導による研究計画書の作成 ② | (領域担当教員) |
| [11] 担当領域・担当教員の指導による研究計画書の作成 ③ | (領域担当教員) |
| [12] 担当領域・担当教員の指導による研究計画書の作成 ④ | (領域担当教員) |
| [13] 担当領域：研究計画書の発表 ① | (領域担当教員) |
| [14] 担当領域：研究計画書の発表 ② | (領域担当教員) |
| [15] 研究ゼミナールⅡに向けた全体ガイダンス | (久保) |

【教科書】

坂下玲子、宮芝智子、小野博史(2016)系統別看護学講座 別冊 看護研究, 医学書院.

【参考書】

大木秀一(2015)看護研究・看護実践の質を高める文献レビューのきほん, 医歯薬出版.

【評価方法・評価基準】

研究計画書 50%、授業への参加態度 30%、発表 20%

【講義のために必要な事前・事後学習】

担当教員の指導を受けながら、自らの研究課題を明確にし、研究計画書作成をすすめる。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅷ. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

研究計画書を作成し、領域内で計画書の発表、ディスカッションを行い学びを深める。研究計画書は別途評価基準を示し、評価項目に沿って評価し、個人にフィードバックする。

【備考】

看護研究、研究ゼミナールⅡと関連が深い。特に、研究ゼミナールⅡで行う研究論文作成に向け、研究実施可能な研究計画書を完成できるように、主体的に学習を進める。